

小規模企業の景況

(令和2年7～9月期)

大阪商工会議所による小規模企業の景況調査(四半期毎)令和2年7～9月期の結果概要は以下の通り。今期(令和2年7～9月期、調査基準日:9月1日)の業況DI値は、▲62.4(前回調査から13.1ポイント改善)と5期ぶりに上昇し、持ち直しの動きがみられた。売上額DI値は▲65.5(前回調査から11.4ポイント改善)となり、業況DI値、売上額DI値はいずれも前回調査の過去最大の落ち込みの反動により、リーマン・ショック後の回復期にあたる平成22年1～3月期以来の上げ幅となった。また従業員過不足DI値は▲3.4となり、中小企業の人手不足感が強まった。業種別では製造業が6.7、卸売業が▲1.5、小売業が▲4.5、サービス業が▲13.4となった。

「経営上の問題点」では製造業、卸売業、サービス業で「その他」が第2位となり、「その他」の自由回答欄に記載があった全業種44件のうち30件が、コロナ禍の受注難やコロナ感染による事業継続不安などを原因としたマイナスの影響を指摘した。

1. 今期(令和2年7～9月期)の状況

【売上額】今期(令和2年7～9月期)の売上額DI値(全産業)は、前回調査(令和2年4～6月期)の(▲76.9)から11.4ポイント改善し、▲65.5となった。業種別では前回調査から、製造業が13.3ポイント、卸売業が9.0ポイント、小売業が3.8ポイント、サービス業が17.5ポイントそれぞれ改善した。

【資金繰り】今期の資金繰りDI値(全産業)は、前回調査(▲49.3)から20.0ポイント改善し、▲29.3となった。業種別では前回調査から、製造業が14.6ポイント、卸売業が23.8ポイント、小売業が13.5ポイント、サービス業が26.7ポイントそれぞれ改善した。

【業況】今期の業況DI値(全産業)は、前回調査(▲75.5)から13.1ポイント改善し、▲62.4となった。業種別では前回調査から、製造業が9.3ポイント、卸売業が15.0ポイント、小売業が8.3ポイント、サービス業が18.7ポイントそれぞれ改善した。

【従業員】今期の従業員DI値(全産業)は、▲3.4(前回調査▲1.4から▲2.0ポイント)となった。前回調査との業種別の推移は、製造業が▲1.3ポイント、卸売業が▲4.5ポイント、小売業が+(プラス)2.9ポイント、サービス業が▲4.6ポイントとなった。

2. 来期(令和2年10～12月期)の予想

来期(令和2年10～12月期)の全産業の予想DI値は、売上額▲62.8、資金繰り▲34.8、業況▲57.6となった。

3. 経営上の問題点

第1位は、製造業・卸売業・小売業が「需要の停滞」、サービス業が「その他」となった。

※DI値とは……ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、本調査では前年同期(令和元年7月～9月期)と比較して売上額、業況、資金繰りなどが「増加」「好転」したなどとする企業割合から、「減少」「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

【調査の概要】

- ・調査名:第161回中小企業景況調査(中小企業庁・中小企業基盤整備機構)
 - ・調査時期:令和2年8月21日～9月1日(前回:令和2年5月22日～6月9日)
 - ・調査方法:経営指導員による、調査票に基づく聴取り調査
 - ・調査対象:大阪市内の中小企業・小規模事業者
 - ※ 全国7,918件中、大阪商工会議所分324件。
 - ※ 本紙では、大阪商工会議所分のうちとくに小規模事業者(従業員:製造業20人以下、商業・サービス業5人以下)290件について取りまとめた。
- [製造業75件、卸売業67件、小売業66件、サービス業82件]

■DI値推移(全産業)

	158回調査	159回調査	160回調査 (前回)		161回調査 (今回)	
	R1(2019年) 10～12月期	R2(2020年) 1～3月期	R2(2020年) 4～6月期	R2(2020年) 7～9月期	R2(2020年) 7～9月期	R2(2020年) 10～12月期
売上額(増-減)	-25.7	-33.2	-76.9	-76.2	-65.5	-62.8
資金繰り(好-悪)	-19.9	-22.1	-49.3	-54.1	-29.3	-34.8
業況(好-悪)	-26.4	-32.9	-75.5	-70.3	-62.4	-57.6
従業員(過-不)	-15.8	-13.8	-1.4		-3.4	

■経営上の問題点

順位	製造業	件数	卸売業	件数	小売業	件数	サービス業	件数
1位	需要の停滞 →	35 (31)	需要の停滞 →	33 (33)	需要の停滞 → 消費者ニーズの 変化への対応 ↑	14 (19) 14 (8)	その他(コロナウ イルスによるクラ イアントの業績悪 化、コロナによる 事業展望の不透明 さ等) ↑	24 (17)
2位	その他(コロナ 禍の受注難、コ ロナ禍での経済 停滞等) →	9 (11)	その他(コロナ感 染による事業継続 不安、一部商品の 極度の品薄等) →	5 (10)			需要の停滞 ↓	13 (25)
3位	製品ニーズの 変化への対応 ↑	6 (5)	事業資金の借 入難 →	4 (4)	大型店・中型店の 進出による競争 の激化 ↓	7 (10)	利用者ニーズ の変化への対 応 →	10 (8)

[注]()内は前回(令和2年4～6月期)調査結果

↑=前回より高順位

→=前回と同順位

↓=前回より低順位

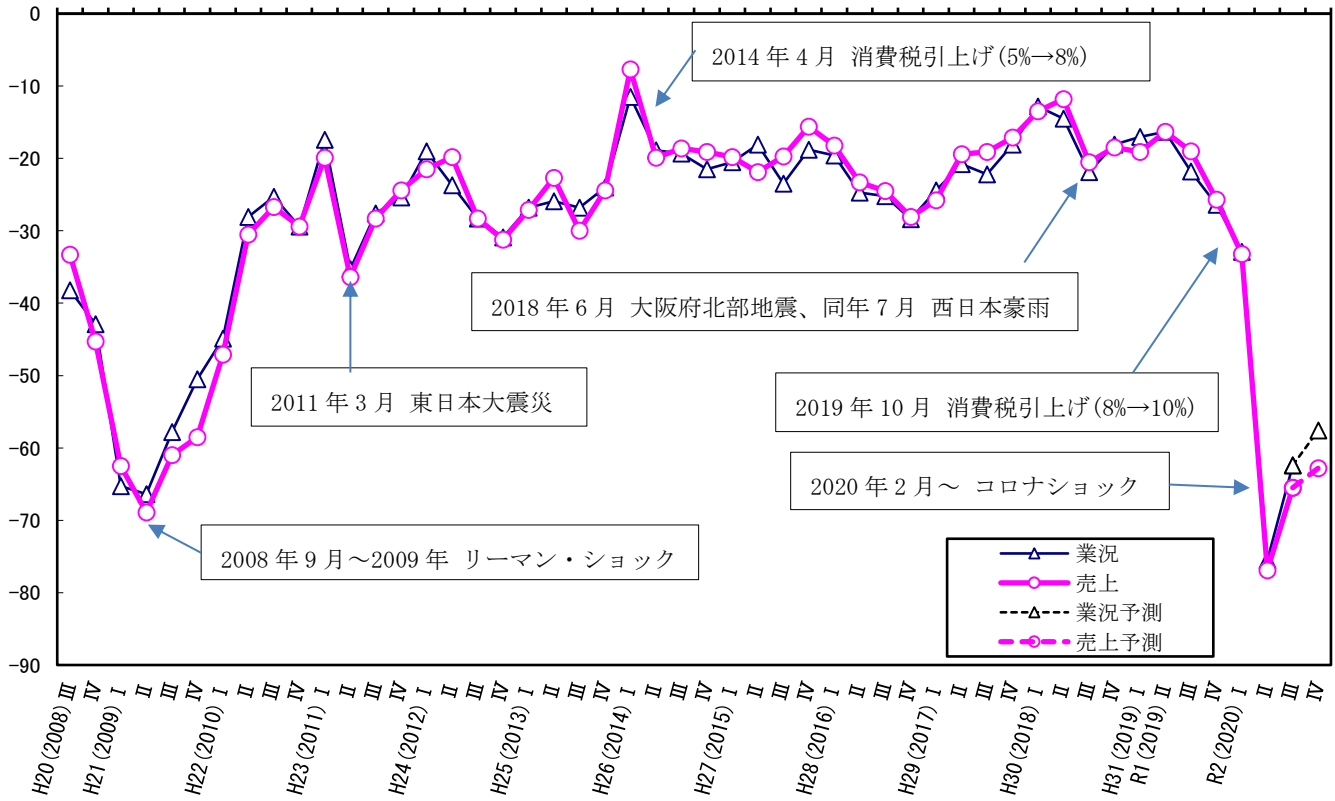
■ 状況比較表（業種別）

項目	業種	今期の状況(7～9月期)				前回(4～6月期)からの推移	来期の予想(10～12月期)			
		増加	不変	減少	増－減		増加	不変	減少	増－減
売上額										
	製造業	8.0	16.0	76.0	▲ 68.0	13.3	6.7	17.3	76.0	▲ 69.3
	卸売業	4.5	16.4	79.1	▲ 74.6	9.0	7.5	11.9	80.6	▲ 73.1
	小売業	10.6	6.1	83.3	▲ 72.7	3.8	9.1	16.7	72.7	▲ 63.6
	サービス業	13.4	23.2	63.4	▲ 50.0	17.5	13.4	25.6	61.0	▲ 47.6
	合計	9.3	15.9	74.8	▲ 65.5	11.4	9.3	18.3	72.1	▲ 62.8
	前回	5.2	12.8	82.1	▲ 76.9		4.5	14.8	80.7	▲ 76.2
資金繰り		好転	不変	悪化	好－悪		好転	不変	悪化	好－悪
	製造業	5.3	57.3	36.0	▲ 30.7	14.6	2.7	52.0	42.7	▲ 40.0
	卸売業	7.5	56.7	35.8	▲ 28.4	23.8	4.5	55.2	38.8	▲ 34.3
	小売業	6.1	45.5	48.5	▲ 42.4	13.5	4.5	43.9	48.5	▲ 43.9
	サービス業	13.4	53.7	31.7	▲ 18.3	26.7	9.8	54.9	32.9	▲ 23.2
	合計	8.3	53.4	37.6	▲ 29.3	20.0	5.5	51.7	40.3	▲ 34.8
	前回	2.4	44.8	51.7	▲ 49.3		3.4	38.3	57.6	▲ 54.1
業況		好転	不変	悪化	好－悪		好転	不変	悪化	好－悪
	製造業	5.3	21.3	73.3	▲ 68.0	9.3	5.3	21.3	70.7	▲ 65.3
	卸売業	3.0	22.4	73.1	▲ 70.1	15.0	1.5	23.9	68.7	▲ 67.2
	小売業	7.6	18.2	74.2	▲ 66.7	8.3	4.5	28.8	63.6	▲ 59.1
	サービス業	8.5	34.1	56.1	▲ 47.6	18.7	12.2	32.9	53.7	▲ 41.5
	合計	6.2	24.5	68.6	▲ 62.4	13.1	6.2	26.9	63.8	▲ 57.6
	前回	3.1	17.6	78.6	▲ 75.5		2.4	20.0	72.8	▲ 70.3
従業員		過剰	適正	不足	過－不					
	製造業	16.0	72.0	9.3	6.7	▲ 1.3				
	卸売業	6.0	82.1	7.5	▲ 1.5	▲ 4.5				
	小売業	3.0	74.2	7.6	▲ 4.5	2.9				
	サービス業	6.1	69.5	19.5	▲ 13.4	▲ 4.6				
	合計	7.9	74.1	11.4	▲ 3.4	▲ 2.0				
	前回	10.3	69.7	11.7	▲ 1.4					

「今期の状況（除従業員）」は令和2年7～9月期状況であり、前年同期の令和1年7～9月期との比較。来期の予想は令和2年10～12月期予想であり、令和1年10～12月期との比較である。

「前回」欄は令和2年4～6月期調査の数字。従業員は、過去との比較ではなく、業務量に照らした過不足。

■景況グラフ（売上額・業況）



※表示値＝D I（増加・好転－減少・悪化）値

※ I 期=1-3月、II 期=4-6月、III 期=7-9月、IV 期=10-12月

※令和2年IVは予想値